

大豆由来のPS データを最も豊富に有する



リパミン™ PS

リパミン™ PS ラインナップ

- LIPAMINE PS 90PN PS含量 88%以上
- LIPAMINE PS 70PN PS含量 70%以上
- BHN PS-20P PS含量 18-22%

推奨量 100 - 300mg/日

リパミン™ PSとは

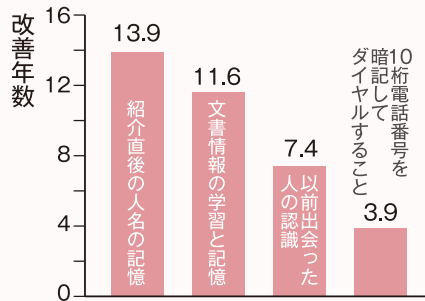
リパミン™PSは、大豆レシチン(リン脂質)からつくられたホスファチジルセリン(PS)です。PSは、脳内の集中力や学習能力に関与する神経伝達物質“ドーパミン”と“アセチルコリン”の分泌を促進したり、ストレスホルモン“コルチゾール”を低下させることが知られています。

リパミン™PSで行った試験では、高齢者の認識力改善をはじめ、抗ストレス、集中力、AD/HD(注意欠損多動性障害)、スポーツニュートリションに関して数々の有効性が証明されています。

記憶力の改善効果

脳年齢を若返らせるリパミン™PSの効果

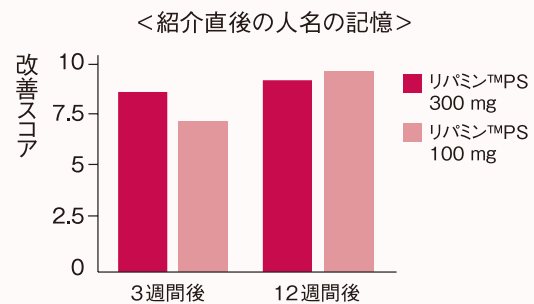
被験者: 149人(年齢50~75歳)
投与期間: リパミン™PS(PSとして300mg/日)または
プラセボを12週間
評価内容: 摂取前後でのPS群とプラセボ群で記憶力テスト
による改善した脳年齢の比較



➡ リパミン™PS群で66歳の方が52歳の人のような成績を示し、脳年齢の若返りを確認

リパミン™PS 100mg投与と300mg投与の比較

被験者: 12人
投与期間: リパミン™PS(PSとして300mg/日または
100mg/日)を12週間
評価内容: 3週間、12週間後に経時的に記憶力を300mg/
日群と100mg/日群で比較

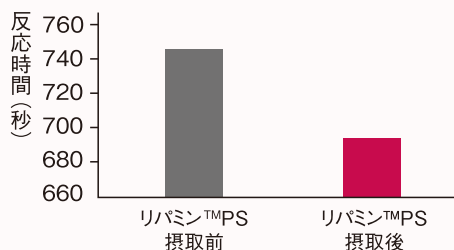


➡ PSとして100mg/日でも300mg/日と同等の効果を確認

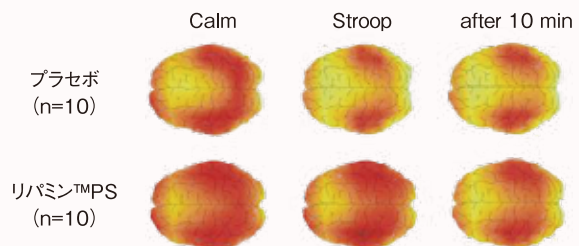
ストレス緩和効果

被験者: 大学生男性20名
投与期間: リパミン™PS(PSとして200mg/日)またはプラセボを6週間
評価内容: ストループ・カラーワードテストによる反応時間およびテスト時の集中力の指標
シータ波の変化

ストループテストにおけるリパミン™PSの効果



大脳の活動(シータ波のシグナル)



➡ テストの反応時間はリパミン™PS摂取群で優位な改善がみられ、シータ波シグナルの有意な増加も確認
リパミン™PSは、精神的ストレスを緩和し集中力を高めることを確認

AD/HDの改善効果

(注意欠陥多動性障害)

被験者： AD/HD児36名(4～14歳)
 投与期間： リバミン™PS (200mg/日) またはプラセボを2ヵ月間
 評価内容： 摂取前後でのDSM-IV-TR (AD/HDのアンケート調査)、
 go/no-go task (行動抑制の代表的な課題)、WISC-III (知能検査)

※群内において、統計的に有意な差が認められた項目
 (*: P < 0.05, **: P < 0.01)

		リバミン™PS群 (n=19)		プラセボ群 (n=17)	
		Baseline	End	Baseline	End
DSM-IV-TR	AD/HD	11.4 ± 3.2	7.2 ± 3.9**	11.5 ± 3.4	10.9 ± 4.6
	AD (不注意)	6.7 ± 1.7	4.4 ± 2.7**	6.7 ± 1.8	6.7 ± 2.4
	HD (多動性・衝動性)	4.8 ± 1.4	2.7 ± 1.3**	4.8 ± 1.6	4.2 ± 2.0
go/no-go task	逆分握り忘れ (不注意)	1.8 ± 3.3	0.1 ± 0.3*	0.3 ± 1.0	0.8 ± 1.3
	逆分エラー数 (衝動性)	3.4 ± 2.7	2.9 ± 2.8	3.2 ± 1.4	3.2 ± 2.6
	総エラー数	5.3 ± 4.6	3.2 ± 2.7*	3.5 ± 1.8	3.9 ± 3.1
WISC-III	ワーキングメモリ (順唱)	6.6 ± 2.0	7.7 ± 2.7*	6.5 ± 3.1	6.9 ± 2.4
	ワーキングメモリ (逆唱)	4.6 ± 2.5	4.9 ± 3.3	3.9 ± 2.0	3.2 ± 2.4

➡ AD/HDの構成要素である不注意、多動性・衝動性のいずれにおいてもリバミン™PS群で改善を確認

➡ 更にAD/HDが苦手とするワーキングメモリの改善も確認

健常児童の学力の向上

被験者： 健常児童19名(平均年齢8歳)
 投与期間： リバミン™PS (200mg/日) またはプラセボを2ヵ月間
 評価内容： 摂取前後での知能テストにおける下位尺度 (語彙、読み、算数) と習得総合尺度のスコア比較

※有意傾向 *0.05 < P < 0.1

		リバミン™PS群 (n=8)		プラセボ群 (n=11)	
		摂取前	摂取後	摂取前	摂取後
習得下位尺度	語彙	97.8 ± 17.3	99.8 ± 16.2	95.3 ± 10.8	98.0 ± 10.8
	読み	103.7 ± 14	105.3 ± 14	93.8 ± 14.6	94.8 ± 14.3
	算数	96.0 ± 14.5	101.8 ± 15.2	99.4 ± 14.1	96.1 ± 13.1*
習得総合尺度		98.8 ± 16.6	102.6 ± 18.1	95.0 ± 10.9	96.2 ± 13.2

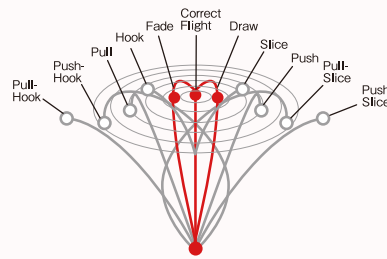
➡ リバミン™PS群において、3つの知能テストにおける下位尺度 (語彙、読み、算数) と習得総合尺度の全てで増加傾向を確認

➡ 「算数」においては、有意傾向を確認

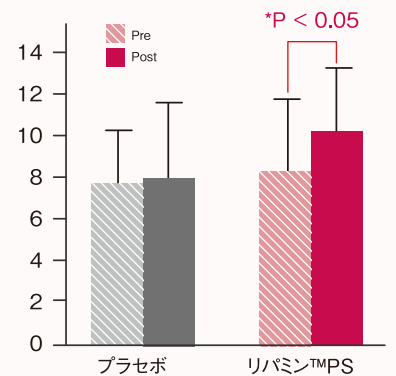
スポーツ分野における効果

集中力/ゴルフパフォーマンス

被験者： 男性20名 (ハンディキャップ15～40の20～55歳)
 投与期間： リバミン™PS (200mg/日) またはプラセボを42日間
 評価内容： 摂取前後でのボールの飛行精度を計測



※飛球を11種類に分類しました。「Correct Flight」、「Fade」、「Draw」をヒット (●)、それ以外をミス (○) としました。



➡ リバミン™PS群でボールの飛行精度の向上を確認

研究者情報

ラルフ・イエーガー 博士
 (Dr. Ralf JAEGER)



ドイツ ボン大学にて有機化学博士号取得。アメリカ カリフォルニア工科大学 (Caltech) で博士研究員を務めた後、ドイツ デグサバイオアクティブス社にて、クリアチン、ホスファチジルセリンを初めとするスポーツニュートリション素材開発に関わり、現在も多くのスポーツニュートリション研究・開発に関わっています。

リバミン広報センター www.lipamin-ps.com



株式会社ヘルシーナビ
www.healthynavi.co.jp
 TEL:03-6715-8068
 E-mail: info@healthynavi.co.jp



DKSHジャパン株式会社
www.dksh.com/japan
 東京 TEL:03-5441-4535
 大阪 TEL:06-6282-0562



ビーエイチエヌ株式会社
 Tel.03-5281-5661 Fax.03-5281-5662
www.bhn.co.jp